

# Health

News for your life from  
Yamagata university hospital



山形大学病院ニュース

# Safety

第10号

2005年2月

●山形大学医学部附属病院ホームページアドレス  
www.id.yamagata-u.ac.jp/MID/index.htm

よりよい病院を目指して

## 人間ドック

予防医療部 八巻 通安

# 開設

本院は平成16年12月に東北の国立大学法人としては初めて、人間ドックを開設しました。いうまでもなく本院は地域への高度医療の提供を使命として診療を行ってまいりますが、これをさらに一歩進めて、地域における健康増進のために大学のもつ知的財産を地域に還元しようというのが今回の人間ドックであります。大学の持つ英知を結集させて、地域の方々の方々の疾患の予防や健康増進に寄与するという考えは、いわゆる地域密着型の本院にとつては非常に意義深いことではないかと思われまふ。

本院での人間ドックでは、一般標準検診に加えて現在わが国の死亡率第一位であるがんを早期に発見し治療するための総合がん検診コースを設定しています。また最新の医療機器であるPET/CTと組み合わせたPET/CTがん検診も準備しました。

本院での人間ドックの特徴としては、1. 最先端の医療成果を検診に結び付けた検診コースメニューである点、2. 治療が必要と判断された場合、山形大学医学部附属病院の各診療科にて迅速な治療を行うルートが確保されている点、3. 受診される方それぞれに個室をご用意してなるべくリラックした時間を持っていただけるように配慮した点、があります。

具体的に総合がん検診の検診内容をお示ししますと、①身体計測(身長、体重、BMI)、②循環器系(血圧、安静時心電図)、③呼吸器系(胸部X線、呼吸機能)、④胸部へリカルCT、⑤腎・泌尿器系(尿糖、尿蛋白、沈渣、クレアチニン)、⑥消化器系(上部消化管内視鏡、腹部超音波、総ビリルビン、GOT、GPT、ALP、γGTP、総蛋白、コリンエステラーゼ、HBS抗原、HCV抗体)、⑦大腸内視鏡、⑧代謝系(血糖、HbA1c、総コレステロール、HDLコレステロール、中性脂肪、鉄、尿

酸)、⑨血液系(赤血球数、白血球数、血小板、ヘモグロビン、MCV、⑩血清系(CRP、RA、TPHA)、⑪眼科系(視力、眼底、眼圧)、⑫聴力検査、⑬ヘリコバクター抗体、⑭喀痰細胞診、⑮がんマーカー(CEA、AFP、CA19-9、PSA分画・男性のみ、CA125・女性のみ)、⑯栄養指導、⑰生活指導、⑱総合診察(聴打診、腹部の診察、女性のみの検診として、⑳乳がん検診(マンモグラフィ、乳房視触診)、㉑子宮がん検診(子宮頸部細胞診、子宮体部細胞診、経膈超音波)となります。

PET/CTがん検診はこの内容から大腸内視鏡が省かれ、PET/CTおよび便潜血反応が追加されます。また一日標準検診は①③⑤⑥⑧⑩⑪⑬⑭⑯に、便潜血反応を追加した内容となります。また各種オプション検診(心臓病、甲状腺、骨密度、前立腺、更年期、歯周病)も用意してあります。詳しい問合せ先は人間ドック専用電話 023-62815879です。是非、多くのかたに利用していただければと思います。

最後になりましたが、人間ドックの開設にあたっては検診担当の各診療科、光学診療部、放射線部、検査部をはじめとした病院各部門、看護部、事務部の多くのかたがたに多大なご尽力をいただきましたことを感謝申し上げます。



## 嘉山孝正医学部長が

## 知事表彰を受賞

地域の救急医療の確立に貢献した功労者に対する県知事表彰式が、平成十六年九月九日(木)に山形県庁で行われ、高橋和雄知事から功績があったとして、嘉山孝正医学部長に表彰状を授与しました。



## 平成16年 医学教育等関係業務 功労者表彰受賞

受賞

## 秋の叙勲

平成16年秋の叙勲の受章者が発表され、本院関係者では次の方が受章されました。

元医学部附属病院  
看護部副看護部長

中野 榮子  
瑞宝単光章



医学又は歯学に関する教育、研究若しくは患者診療等に係る補助的業務に関し顕著な功労があった者として、11月22日(月)にホテルフロラシオン青山を会場に開催された表彰式で、次の両名が文部科学大臣の表彰を受けました。

臨床検査関係業務に尽力  
布施恒和病理部技師長



解剖関係業務に尽力  
月井與純病理部病理解剖助手



# COE 講演会

## 山形大学医学部「21世紀COEプログラム」公開講演会 「地域特性を生かした分子疫学研究」

第二内科 河田純男 (消化器内科)



平成15年7月に山形大学医学部から提案された「地域特性を生かした分子疫学研究」が21世紀COE研究プログラムとして採択されたことは皆様御承知のことと思います。このプログラムは5年間をかけて世界的な研究教育拠点(COE:センター・オブ・エクセレンス)の形成を文部科学省が国家プロジェクトとして支援するものです。

山形大学医学部の「地域特性を生かした分子疫学研究」拠点においては、生活習慣病、がん、パーキンソン病など多因子疾患の発症に係わる遺伝素因に関する研究がこの2年の間に精力的に行われてきました。そこで、その成果の一端を全国の医学研究者、医療従事者および山形県民に広く知っていただくために、昨年10月9日(土)に公開講演会が開催されました。

当日は台風襲来の影響で天候が大変悪かったです。ですが、教職員、学生を始め、名誉教授が多数御来聴いただき、検診に協力された各市町の関係者、さらに医師会の先生方の参加も有りました。ここに心から御礼を申し上げます。

講演会は仙道学長の御挨拶で始まり、山形医学部部長が主催者を代表してCOEの意義と今後の課題について話されました。

今回は特別講演の講師として、東京大学医学部附属病院院長 永井良三先生および東京医科大学難治疾患研究所教授 村松正明先生をお招きし、最先端の研究成果を発表していただきました。また、お二人には本学の教員による講演後の討論にも積極的に参加していただき、山形大学医学部の21世紀COEプログラムの成果について高い評価を頂戴しました。さらに、永井教授からは東京大学におけるCOE拠点での取り組み方について、その戦略を忌憚なく開陳していただき、山形大学におけるCOE拠点の今後の在り方についても有益な助言をいただきました。村松教授は分子疫学の歴史から説き起こし、この方法論の有用性と限界について分かりやすく解説されました。

学内の演者は、第一内科 今田恒夫講師、第二内科 齊藤貴史講師、第三内科 大門 眞助教授、第三内科 加藤丈夫教授でしたが、そ

【資料】  
開催日時：平成16年10月9日(土) 14時30分～  
場 所：山形大学医学部大講堂

次 第

1. 学長挨拶 仙道 富士郎
2. 学部長挨拶 高田 純男
3. 拠点形成リーダー 河田 純男
4. 講演 早坂 清
5. 特別講演 河田 純男
  - (1) 遺伝子の特性を生かした医療と創薬へ向けて  
村松 正明教授 (東京医科大学難治疾患研究所)
  - (2) 心血管系の病態形成における転写因子KLF5の役割  
永井 良三教授 (東京大学医学部附属病院院長)
6. 閉会挨拶 山下 英俊

講演 長 橋 隆

(1) 第一内科におけるCOE島島島島島島島島島の現状と展望  
橋本 隆、呼吸器・消化器内科学分野 今田 恒夫

(2) C型肝炎ウイルスに対する感受性遺伝子の探索  
消化器病態制御内科学分野 齊藤 貴史

(3) 多数の検体遺伝子を用いた2型糖尿病の病態遺伝子解析  
生命情報内科学分野 大門 眞

(4) 孤発性パーキンソン病のリスク遺伝子  
生命情報内科学分野 加藤 丈夫

れぞれ前回の発表より格段に進展した研究成果が示されました。ことに、加藤教授の「孤発性パーキンソン病のリスク遺伝子」では孤発性パーキンソン病発症にかかわる新規の候補遺伝子が絞り込まれ、その機能解析の結果も示されて注目を集めました。山下病院長の今後のプログラムのスムーズな進展に期待するとの閉会の御挨拶により、和やかな中にも活気のある講演会を終了しました。

現在行っている高島町の住民検診には今年度は約3千人が参加し、COEとしての特長検診とDNAサンプリングも極めて順調に進みました。来年度も継続して検診を予定しております。来年度には高島町での研究成果を御報告できると考えています。この高島町での検診には各診療科(部)だけではなく、高島町の多大な御支援と、インフォームド・コンセントを得るためなどに看護部および検診の映像などを記録するためなどに技術部、さらに学務課を始めとする事務部、それぞれの絶大な協力を得ています。ここに紙面をかりて深甚の感謝の意を表したいと存じます。

さて、今後のCOEプログラムの遂行によりデータ蓄積とその解析が進みますと、名実ともに世界的な研究教育拠点が形成されます。山形大学医学部および附属病院の構成員各位におかれましては益々の御協力・御支援をいただきますようお願い申し上げます。

# 高度 先進医療

小児科 加藤 光広



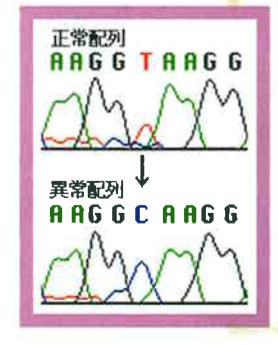
遺伝子の本体である「DNA」の基本構造は二重らせん、明らかにされてから、昨年は五十年の節目で、さらに「ゲノム」の配列解読がやはり昨年完了したこと、テレビや新聞、雑誌で「遺伝子」ということばを目にする機会が多くなりました。現在は、私たち医療にたずさわる者にとって、何を専門にしているようにも、「遺伝子」の知識を常識として身につける必要がある時代になってきました。先天性の疾患が多い小児を対象とする当科では、とりわけ「遺伝子」についての知識が必要であり、実際の診療に欠かせないものになっていきます。今回は、その具体例として、当科で行っている高度先進医療の一つである、遺伝性疾患の遺伝子診断を紹介いたします。

現在当科で系統的に遺伝子診断を行っている疾患は、①遺伝性末梢神経障害、②脳形成障害、③てんかん(点頭てんかん)、④精神遅滞、の四つです。この他にも、新生児黄疸の遺伝的な原因と人種間の違いを世界に先駆けて明らかにし、また、生まれつき眠るや呼吸を止めてしまうオンディーヌ症候群もしくは先天性中枢性低換気症候群の原因遺伝子の解析を行うなど、教職員一同が各専門分野毎にテーマを設けて、個別に遺伝子診断もしくは解析を行っています。今でこそ、多くの遺伝性疾患の原因遺伝子が明らかにされていますが、当科科長の早坂清教授は、遺伝子診断の黎明期から、原因遺伝子の発見に取り組み、世界で初めて二つの異なる遺伝性末梢神経障害の原因を明らかにしました。遺伝性末梢神経障害とは、遺伝子の突然変異による例もあり、家族に同じ疾病をもつ「遺伝」とは限りません。そのような孤発例では類似した非遺伝性の疾患との鑑別診断が重要になります。また、家族に同じ疾病をもつ場合や、症状や経過から遺伝性疾患が疑われる場合でも、確定診断や遺伝相談のために原因である遺伝子を知ることが必要になる場合があります。それらの目的のために行われるのが、遺伝子診断です。

さて、実際の遺伝子診断はどのように行われるのでしょうか？人では、ミトコンドリア遺伝子は別にして、遺伝子は細胞の核の中に存在しますので、核を持つ細胞であれば、遺伝子を調べられます。通常は、採取が容易である

ことから血液中のリンパ球に含まれる遺伝子が解析に用いられます。そのほか、目的に応じ、筋肉や肝臓、皮膚のほか腫瘍組織などが用いられることもあります。遺伝子の本体はアデニン(A)・チミン(T)・グアニン(G)・シトシン(C)の四つの物質(塩基)で構成された文字が二重らせんで長く連なったDNA(デオキシリボ核酸)ですので、まず約10ccの採血(小児では、より少量で可)を行い、その血液からDNAを分離します。分離したDNAは、疾患毎の遺伝子の異常変異の内容により適切な方法で調べられます。もっとも多く用いられている検査方法は、ポリメラーゼ連鎖反応(PCR)を用いて調べる遺伝子の特定領域をたくさん増やし(増幅)、それを自動化された塩基配列解析装置でA・T・G・Cの配列を調べて、正常の配列と比較し、遺伝子のキズ(変異)を探し出す方法です(図)。当科では、当院の検体だけでなく、全国各地から依頼を受けて、遺伝子診断を行っており、多数の検体を短時間で処理(ハイスループト)する必要があります。そのために国内の医療機関では数少ない変性高速液体クロマトグラフィー(DHPLC)法が可能な器械(WAVE)を導入して、ハイスループト化を図っています。

遺伝子診断は、多くの遺伝性疾患にとつて、いろいろな検査をひとつ飛びにして、原因を明らかにするロケットのような検査方法です。しかしロケットも方向と距離を間違えれば目的地には到達しません。通常の遺伝子診断はある一つの原因遺伝子をピンポイントで調べますので、できるだけ正確に狙ってから調べなくてはなりません。正確に狙いを定めるためには、丹念に病歴を取り、くまなく診察し、必要な他の検査を行い、臨症的な診断をしっかりとつけることがたいせつです。「遺伝子診断」という「高度先進医療」も、地道な診療行為に支えられていくことを強く意識したいと思います。



## イベント

## アンパンマンショーと握手会開催

このたび、『財団法人がんの子供を守る会』から小児科病棟訪問事業【クラウドクター事業のークラウン（ピエロ）が笑いや楽しみや喜びを送ることを目的】治療を受ける患者さま（子供たち）を励ますための訪問を受けることになりました。本院でも、同じ目的で、毎週火曜日に院内病院ボランティア「おひさま一緒にの会」を行っていますので、共同開催としました。

今回のアンパンマンショーを見て、病棟の患児・付き添い者・外来の患児・患者さま、そして、職員がたいへん喜ぶことができました。子供たちが真剣な目でジッと見ている様子やその笑顔や母親のうれしそうな顔などたくさん見られました。また、一緒に踊ってくれた子供やそのご家族の様子に感動しました。

元氣と勇気とみなさまの温かな善意に感謝申し上げます。



## アンパンマンの絵プレゼント

アンパンマンの絵をやなせ たかし先生から小児科病棟、外来にプレゼントしていただきました。先生の絵を子供たちが見て、たいへん大きな元氣をいただきました。「アンパンマンの先生が描いて送ってくれたのよ」と言うと、まず、付き添っているお母さんたちが、「うはあー、すごい」と歓声を上げ、子供たちが、「先生が描いてくれたの、僕たちに、」とじっと見つめて、ニコニコしてくれました。また、勤務する私たち医師、看護師も感動しています。

長期療養している子供たちが、毎日のつらい治療を一生懸命にじっと耐えてふと一息している時に、廊下に飾ってあるアンパンマンの絵をみて元氣をもらっています。



## 講演会

## 医学部公開講座を開催

9月25日（土）、10月2日（土）の二回にわたり、「若々しい目を保つために」と題して公開講座を開催しました。

本講座では、眼科を中心に、視力を向上させるためのコンタクトレンズや眼鏡のしくみや問題点、目に発症する白内障をはじめとする様々な眼疾患に対する手術、目に影響を与える全身病の代表格である糖尿病との関連について、さらに、目で感じた情報は脳に伝達されて初めて「みえる」ということになることから、目と脳の関係について脳神経外科の立場からも解説しました。

今回は、募集人員を超える申込みがあり、受講生からは「専門医の講義を直接受けることができ、新たに勤労意欲が出てきた。」「新しい情報を得る良いチャンスだと思って参加しました。」といった声が聞かれ、好評を博しながら無事終了しました。



## 講演会

## 「医療事故と法的責任」講演会

11月17日（水）本院において、「医療事故と法的責任」の講演会が開催され、約四百人が受講しました。

医療事故問題で著名な押田茂實教授（日本大学医学部）並びに鈴木廣弁護士（すずかけ法律事務所）の両氏から講演があり、独立法人化後の法的責任について、一人一人の自覚を促しました。また、外科系医師から、ハイリスク患者を多数かかえている現状について報告があり、病院の法的責任と患者側が求める説明等について活発な意見交換が行われました。なお、同病院では、当日出席できなかった教職員のためにビデオ研修も予定しています。



## 行事

## 防災訓練を実施

毎年恒例の防災訓練を去る11月30日（火）午後を実施しました。今回は、昨年までの附属病院のみの訓練ではなく、医学部教職員及び学生も参加した訓練となりました。

総合訓練では、山形地区に震度5弱の地震が発生したとの想定で、情報収集、指揮系統の確保、災害医療体制各班の任務、行動の確認が実践しながら行われ、医師・看護師が、患者様・模擬患者職員を担架等により1階避難所まで避難誘導する訓練及びトリアージ訓練等が行われました。

基礎訓練では、臨床研究棟の救助袋を使用した降下訓練、消防署員説明による消火器取扱訓練、起震車による地震体験訓練を実施しました。

新潟中越地震発生直後ということもあり、参加者全員が真剣に取り組んだ訓練となりました。

次回は、夜間想定防災訓練を来年二月に予定しています。



# 人事往来

じんじ・おうらい

2005年1月

(16.10.1~17.1.1)

## 医学部

**退職** 16.10.31 代謝再生統御学講座腎泌尿器外科学分野 講師 矢口 博理  
(山形市立病院済生館)へ  
16.12.31 管理課用度第二係長 松田 康政

**昇任** 16.11.1 看護学科基礎看護学講座 教授 布施 淳子  
(看護学科 助教授)から  
16.11.1 代謝再生統御学講座腎泌尿器外科学分野 講師 加藤 智幸  
(医学部 助手)から  
17.1.1 管理課用度第二係長 川田 康博  
(工学部会計係)から

**採用** 16.10.1 器官機能統御学講座循環器・呼吸器・小児外科学分野 助手 熊谷紀一郎  
(東北大学病院)から  
16.11.1 発達生体防御学講座免疫学分野 助手 ミザナル ラフマン  
(バングラディッシュ大学)から  
16.11.1 代謝再生統御学講座腎泌尿器外科学分野 助手 糸井 俊之  
(新潟大学大学院医歯学総合研究科)から  
17.1.1 管理課病院第一係 菅井久美子  
(文部科学省生涯学習推進課)から

## 附属病院

**昇任** 16.11.16 歯科口腔外科 講師 高橋 晃治 (医学部 助手)から

**採用** 16.10.1 放射線科 助手 花輪 千智 (医員)から  
16.10.1 脳神経外科 助手 竹村 直 (山形市立病院済生館)から  
16.10.16 光学医療診療部 助手 福井 忠久 (医員)から  
16.12.1 歯科口腔外科 助手 櫻井 博理 (公立置賜総合病院)から  
16.12.1 皮膚科 助手 木根淵智子 (医員)から

**退職** 16.10.31 皮膚科 講師 片方陽太郎  
(弘前大学農学生命科学部教授)へ  
16.11.30 歯科口腔外科 助手 小山 宏樹 (公立置賜総合病院)へ  
16.12.31 整形外科 助手 針生 光博 (県立日本海病院)へ

## 編集後記

en editorial postscript

二〇〇五年が明けて、もはや一ヶ月以上が経過しました。国立大学の法人化後大きなうねりのような動きが続いています。山形大学医学部附属病院も人間ドック開設、医学部の21世紀COEへの積極的な参加などのニュースに加えて、嘉山学部長が山形県の救急医療の顕著な貢献を顕彰されたことも大きなニュースです。このような情報をなるべく多くお伝えするため、山形大学医学部附属病院の「大学病院ニュース」の紙面を改革して4ページにしました。今後皆様様の御要望にお応えすべく努力してまいりますので、是非御愛読下さい。

- 発行 平成17年2月28日
- 発行所 山形大学医学部附属病院  
〒990-9585 山形市飯田西2丁目2-2  
TEL 023(633)1122代  
「山形大学病院ニュース」編集委員会
- 編集委員長 山下 英俊
- 事務担当 総務課庶務係 連絡先 TEL 023(628)5006
- 印刷所 坂部印刷株式会社

## 患者さんの声

患者サービス向上委員会

「患者さんの声」として寄せられた投書については、当該部門に通知し改善を図っていただいているところですが、本年度の4月から9月までの間に次のような投書が寄せられております。

各部門においては、今後とも患者サービスの向上に努めていただくようお願いいたします。

## 要望

(◎を付した要望については、対応状況を記載しております。)

### 医師

◎名前を呼ぶ声が早口で、良く聞き取れない。  
対応一医局会にて、患者さんの名前を呼ぶ時は、はっきりと、ゆっくりと呼ぶように周知します。

○患者を呼ぶ時、もっと静かに、心を込めて呼んでほしい。

○血液検査等の結果説明が遅い。

### 看護師

◎看護師さんの申し送り、十分にお願ひします。患者の容体を把握してから、正確に伝えてください。

対応一看護師は三交替勤務となっており、申し送りをして勤務を継続しております。それが十分なされずに不快な思いをさせていただきました。各病棟に指導をして改善をしております。

○患者のプライバシーを簡単に話す。

○挨拶がない。

### 待ち時間

◎予約時間を30分以上経過したので確認したところ、新患が間に入るの、9時予約の方も1時間以上遅れているとの返答。その様なシステムなら、何故予約を入れるのか。本来の予約の意味がない。

対応一当科では、新患担当医と特診再来担当医に分かれて診察を行っております。御指摘のような事態は希なことではあります。待ち時間の短縮について、鋭意努力してまいります。

○レントゲン写真を撮るとき、すごく待ちました。

### その他

◎食事(おかず)が少し落ちてきているように思います。一日のバランスは良いのですが、普通食はもう少しおいしくあることを望みます。

対応一献立は、年間サイクルになっておりますが、どうしても予算、人員、季節等に左右されることが多く悩むところです。患者さんに喜んでいただける献立を目指して、今後もレシピの充実を図るよう努めます。

◎病院のトイレ、洋式が少ないです。

対応一当面は、年次計画で洋式化を進めています。将来は、整備計画と調整を図りつつ、洋式化を進めていきます。

◎各廊下がずいぶん汚れています。

対応一病院内の清掃は、日常あるいは定期的に実施し、日頃から力を入れておりますが、今後、改めて清掃担当者へ指導を行うとともに、適宜、清掃箇所の点検を行うなど、より一層の清掃業務向上に努めます。

## 感謝

○7月22日に検査入院いたしました。入院中お医者様方、また、看護師の皆様方、患者の気持ちにたった看護、心からありがとうございます。

○先日、救急車で父が運ばれました。ガードマンの方がとても親切に対応してくれました。あの時の心温かい対応にどれほど安心させられたことでしょうか。お礼を言います。